

独占欲の檻に咲く、

令嬢の絶頂

好きな男子と結ばれたら、何故か義兄と幼馴染から剥き出しの激情をぶつけられるようになった。

Vol.3 完結

【はじめに】

本作はフィクションであり、強引な描写や背徳的な状況、稽古というじゃれ合い程度の軽い暴力表現を含みます。

成長と恋の物語として取り入れております。
苦手な方はご注意ください。

男女目線があります。本文は横書きです。

2巻とは、違う新鮮な展開も楽しんでもらうために、刻夜の時とは違う展開と同じ展開が混ざるエロにしていますが、処女設定です。

収録内容

1回目:強引な展開、悪態、両片思いエロ、年下攻め、敬語の言葉責め、タメ口、クリ責め、潮吹き、連続絶頂、おしっこ我慢、おもらし、中出し。

2回目:睡眠中、無理矢理展開、クリ責め、中出し、無断挿入、関西弁。

人物紹介

蝶野 ゆずりは(ちょうの ゆずりは)

20歳の女子大生。感情が高ぶると関西弁を話す。メスガキ、高飛車お姉様。ツンデレ。かなりの美女。

2つ年下の幼馴染の刻夜に惚れている。

桐生 刻夜(きりゅう ときや)

18歳の大学生。ゆずりはの年下幼馴染。

昔虐めてきたゆずりはに間接的に告白された上に、衝撃な光景を目撃して、怒り狂う。口が悪い。かなりのイケメン。

黒髪短髪紺色の目。

蝶野 新一(ちょうの しんいち)

21歳。ゆずりはの一つ年上の義兄。関西弁。
金髪短髪青色の目。
ゆずりはに無自覚に執着している。かなりの
イケメン。

ゆずりは目線

私が刻夜を好きになったきっかけは顔だったけど、勿論顔だけではない。

私は、今でこそ外面が完璧で受け入れられているが、名家に生まれてきた事から、幼い頃は誰にでも威張り散らして生意気だったので、親やクラスメートからも、煙たがられていた時期があった。

刻夜とは、私が6歳の時、彼が4歳の時に知り合った。

最初は大人が刻夜に稽古をつけて基本を全て教えて、私達のチームに入れてもいいと判断されてからコッチにやってきた。

生意気だった私は、仲間外れにされていて、一人寂しかった時に刻夜は声をかけてくれた。

「なんか、おちこんでんのか？」

刻夜は、子供の頃はため口を聞いていて、可愛いのになんか生意気な男の子と思っていた。

「...べつにそなんじゃないし！」

ツーン！とそっぽ向くと、刻夜の顔が引き攣るのが分かった。

「なまいきなたかびしゃおねえしゃまだな！」

刻夜は幼いのに変な言葉を知っていた。

「たかびしゃ？なにそれ？」

「おまえみたいなやつをいうんだよ」

馬鹿にしてるのは何となく雰囲気理解できたので、生意気なクソガキだと思っていた。

（顔はいいけど、顔だけだったわ。）

そう認識を改めた。

それから数日後、私は刻夜と年が近いからか、彼の稽古をつけろと言われて、彼をボコボコにしていた。

「わきがあまい！あいてがうごいてからうごく
んじゃないくて、あいてのめをみてよそくしてか
らうごく！

アンタはおそいんだからおいつけないよ！」

経験値もまだまだで、トロくさいので、ヒントを
与えながらやった。

「ちょっ！もうやめ！」

「やめてくれるとおもったらまけだよ！そんな
あいてにいぞんするたたかいかただと、ボコ
ボコにされるだけだからね！」

経験を積ませるために、あえて止めてと言っ
てもボコボコにした。

うちの家系のルールでは、誰かが止めるま
で、相手のやる気が消失するまでボコボコに
する。それが、この世界の武術のやり方だっ
たからだ。

勿論手加減は思いっきりしてた。ただ、甘えた考えを持っていると、生きられないと教えてなかったのだ。

「いや、幼い子相手にやりすぎなのでは？」

「わたしもあれぐらいふつーにされてたけど？」

刻夜にしてることはかつて私がされた事だった。

この世界ではあれが当たり前なのだ。
言われた言葉もそのまま刻夜に言ってるし。

「...いや、蝶野ちゃんは、名家の娘だからね。」

「ときやはつよくなれるよ。」

「クソ！おまえつぎはぜったいにしゃけてやるからな！」

そう言っていたのを思い出した。生意気なのは武術ではいい傾向だった。

「きのうのわざのにげかたはこうやってこうだよ？」

そして、ちゃんと避け方も教えた。

「てかげんしてあげてるんだから、ちゃんとにげかたがわかったら、にげられるようにしてるからね！」

「て、てかげんとか、いらねーよ！おんなにまけるか！」

「はいはい、まけんきだけはつよいね。」

弱いのに諦めずに挑んでくる彼に感心していた。

孤独だった私は彼を段々と必要としている自分に気付いた。

そもそも顔がドンピシャタイプだった。

一目惚れしていたのかもしれない。
今となってはそれもどうでもいいことである。
理由なんて言い訳だ。本能が彼を欲していた。

そして、現在。その男の子に組み敷かれて、服を剥かれた。

ずっと好きだったけど、なんでこうなった！？

「この童貞！！」

押し倒された私は混乱してて、好きな男子、刻夜に悪態をついた。

「...は！相変わらずの高飛車なお姉様ですね。」

そして、耳元で、「俺が童貞だったら何だって言うんですか？」と囁いてきた。

え？！適当に言ってみただけなのに、本当に童貞なの？

...嬉しい♡

突然引き寄せられたと思ったら、歯がぶつかってきた。

いったあ！！と思いながらも、相手も顔を歪めながらも、私が逃げられないように、頭に手を伸ばして、息もできないほどに唇をピッタリと合わせてきて、奪われる。

.....え、ええ！？と、とととと刻夜と、き、キスしてる！？

もう、分からない？！なんでこんな事してくるの！！

強引に口の中まで舌が入ってきて、息も出来ないぐらいに激しく絡まされて、求められてい

るみたいに感じられて、ゾクッ♡と震えが走る。

キスされながら胸の尖った先をカリカリとされたり、スリスリされたり、ギュッと摘まれて、根本から刷り上げられたりする。

刻夜にされること全部気持ちいい♡

でも、まだ胸でのイキ方がよく分からない。手付きも慣れてない感じで、逆にそれが嬉しい。

不意に、下着の中に手が入ってきて、ビクッ！と反応してしまう。

割れ目全体をヌルヌルと刷り上げられる。

...気持ちいい♡と思っていたら、クリに擦れて、ぶわっ！！と鳥肌が立つ。

「何反応してるんですか？アンタは、これ、気持ちいいんですか？」

「は、はあ、そなんじゃ、な、ないし！」

わ、私、クリトリスあんまり触った事ないから敏感なのに！？

期待勃ちして、皮から頭でちゃってる♡

その剥けてる先をコロコロと転がされて、漏れそうになる悲鳴を噛みしめる。

「...これ、気持ちいいんですか？凄い震えますけど？」

続きは製品版にて！

ゆずりはは最後誰を選ぶのか！その結末を見届け下さい！